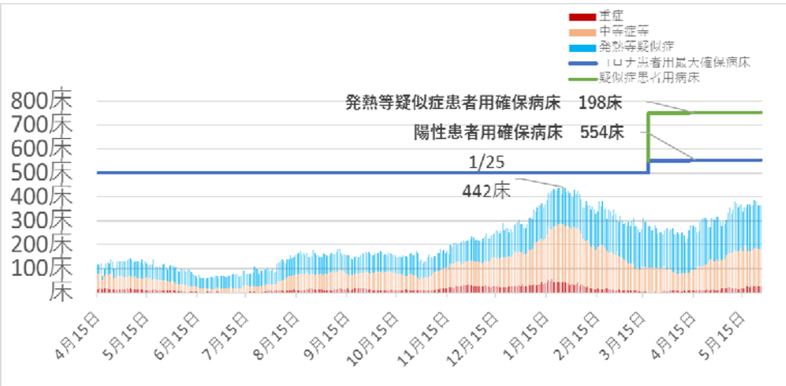
健康福祉・医療委員会
令和３年５月３１日
医療局

新型コロナウイルス感染症の医療提供体制について

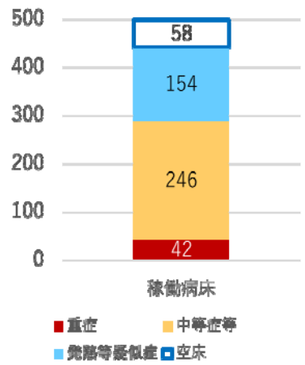
1　第３波の分析

第３波は、11月上旬に立ち上がり、12月以降、神奈川県内では、医学的な視点による入院の必要性を判断するスコアを導入してきました。１月初旬以降、新規陽性者数が急増する中、入院患者数も増加し、１月25日には横浜市が新型コロナウイルス**陽性患者用に確保した500床**に、最大となる**288人の陽性患者が入院**しました。また、発熱等コロナを疑う患者さんを含めると、442人が陽性患者用病床を使用、**病床稼働率は88.4%**となり、病床がひっ迫しました。

■陽性患者用病床の稼働状況

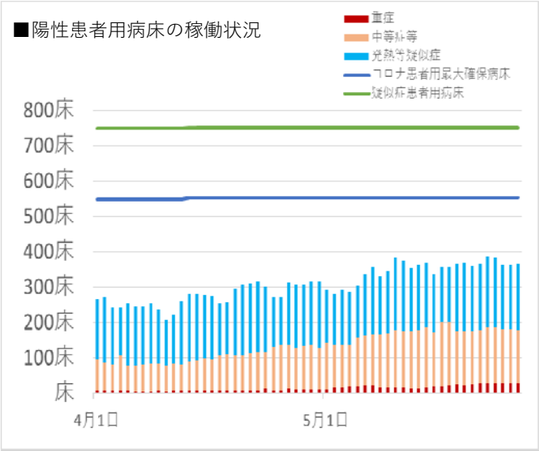


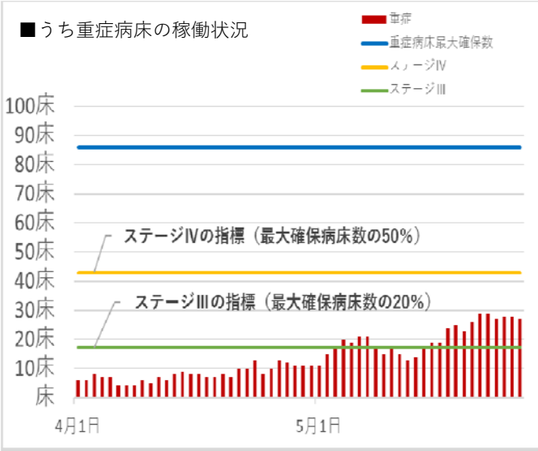
■最も病床がひっ迫した
１月２５日の病床稼働数



2　第４波の現状

第４波では、陽性の入院患者数が、４月中旬以降緩やかに増加し、５月26日現在で、**180人の陽性患者が入院**していますが、**症状に応じた医療機関の選定**ができています。なお、**重症病床**については、利用率が増加する傾向にあり、ステージⅢの20%を超えていますが、現在のところ通常医療との両立は図られています。





3　第４波に向けた病床の確保

第３波を踏まえ、第４波に向けて、神奈川モデルのもと、市内医療機関の御協力をいただき、必要な病床を確保しています。

＜第３波の課題＞

- 入院患者数(陽性者)が最大 288人となった

２倍確保 ⇒

＜第４波への対応＞

- 陽性患者用病床　**554床**
  （うち、重症　86床）

- 発熱等疑似症患者にも陽性患者用病床で対応
- コロナの症状が軽快した後も引き続き陽性患者用病床に入院

機能別に病床確保 ⇒

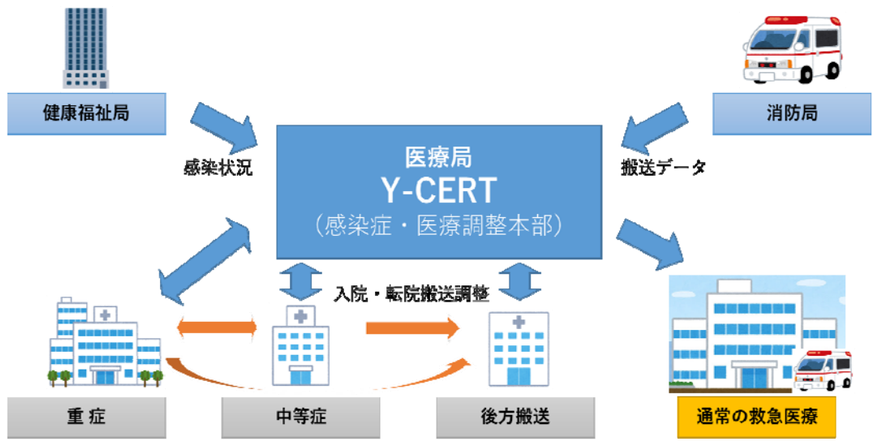
- 発熱等疑似症患者用病床　**198床**
- 後方支援病床　**173床**

※合計　64病院・925床
（県立病院を除く）

⇒確保病床（500床）がひっ迫

4　Y-CERTの体制強化

市内のコロナ受入病床を十分に活用するため、入院・転院調整や搬送調整を医師、保健所、消防局等と一体となって進めています。

令和３年４月から、**課長級以下6名**を新たに配置し、**専任化**することで、執行体制を強化しています。

さらに、感染拡大時には、**医師（市内救命救急センター長、市医師会、市病院協会）が常駐する「Y-CERT特別対策チーム」を編成**します。